

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/2階あやめ・3階あさがお)

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2795000559 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 柏樹会 | | |
| 事業所名 | フォレストガーデン くさか | | |
| 所在地 | 大阪府東大阪市日下町3丁目7-14 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年7月21日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年10月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://care-net.biz/27/fg-kusaka/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 |
| 訪問調査日 | 令和5年8月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いままで毎月定期的に認知症カフェと運営推進会議を開催し、みなさまの意見を頂いて、遠足・食事ツアーのレクリエーションや敬老祭・夏祭り施設行事など、職員と地域の方達一緒に取り組んでましたが、コロナ感染拡大の影響で、現在運営推進会議と認知症カフェ休止状態です。このような状況で利用者様に感染しないようにマスク着用・手洗い・うがい・消毒を徹底し、サービス向上を出来る為に、各ユニットにカラオケ配置し、体操・折り紙・塗り絵など提供して、退屈のない毎日に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体である社会福祉法人柏樹会は特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能型居宅、認知症対応型通所介護、ケアプランセンターなど複数の高齢者施設を運営している。事業所は東大阪市が天然記念物と指定したヒトモトススキが群生するのは珍しい生駒山の麓に位置し、デイサービス、小規模多機能型施設を併設した3階建ての建物の2階、3階部分にある。法人は地域に根ざした運営を目指しできるだけ地域の人達に事業所に来てもらえるよう認知症の人や高齢者に限定することなくすべての年代の人が集える柏樹カフェを第3日曜日に開催したり、年1回敬老祭には大抽選会を開催して子供たちにもプレゼントし事業所の存在を知ってもらえるよう尽力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理職と職員共に法人の理念「心あるサービス・おもてなしの心を大切に、明るい笑顔・清潔な身なりで利用者・家族に接します」常に心掛けし、サービスを提供しています。 | 法人の理念である「心あるサービス・おもてなしの心を大切に、明るい笑顔・明るい挨拶・清潔な身なりで利用者・家族に接します」を入口に掲示している。毎朝理念を皆で唱和することはしていないが、入職時の研修、利用者への接し方や言葉遣いなど気になる時には管理者の判断で理念について振り返りを行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | いままで運営推進会議と柏樹カフェを通して地域の方々や近隣施設と関係作りを行い、地域との繋がりがもてるよう活動を行っていましたが、コロナ続いて中で開催する事が出来なくなり、FAX・電話にて情報交換を行っている。 | コロナ禍以前は法人名である柏樹カフェを開催し、認知症の人だけではなく誰でも参加できるカフェを開催したり、近くにある会館でのカラオケ大会や大道芸の見物、正月には七草がゆをご馳走になったりして地域に出かけていた。今年は久しぶりに事業所で開催する敬老祭に沢山の人たちにも来て頂けるよう準備をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | いままで毎月1回実施している認知症カフェを通して、地域の方への情報発信を行っていましたが、コロナの影響でチラシ・インターネットを通じて地域の方に情報提供している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 隔月開催の運営推進会議を通して、近隣施設や地域の方々や意見交換を行い、日々の取り組みの振り返りやアイデアを得ることでサービス向上に活かしている、コロナ感染落ち着くようになり、今年から再開しています。 | 奇数月の第3水曜日に地域包括支援センター、民生委員、家族、事業所に理解のある地域の人々が参加して会議を開催している。トランプをすることで脳の活性化に繋がるのではないかと提案があり取り入れることにした。議事録はいつでも見られるようにファイルして玄関に置いている。 | 議事録はファイルして閲覧できるようにはしているが、家族はファイルがあること自体気付かないこともある。事業所の運営状況を家族に知ってもらえるよう議事録は全家族に郵送することを望む。自治会長の参加が難しいとのことであり、自治会長にも議事録を配布し事業所の存在をアピールすることを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者との連携を図り、協力体制の構築に日々努めている。又地域包括の緊急ケースの相談に協力体制で取り組んでいる。 | 生活保護受給者の利用者の受け入れをしているため担当のケースワーカーとの連携を図っている。認知症サポーター養成講座開催時の場所の提供や介護保険の更新、コロナ禍でクラスターが発生した時には役所と連携して入院の連絡調整、コロナワクチンの集団接種など日頃から市役所との協力関係の構築はできている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止に向けたマニュアル整備を行い、身体拘束廃止委員会で他職種との共同で議論の場を設け、できるだけ拘束にあたらぬ環境作りができるよう取り組んでいる、必要のある場合は家族様の同意を得て行っている。 | 身体拘束廃止委員会は法人全体で開催している。指針を整備し年2回研修も実施している。フロア入口は開放しているため利用者はいつでも自由に入出りができるようになっている。職員のストレスから拘束にならないよう管理者は常に職員と困ったことがないか相談に乗るようにしている。今後は職員が身体拘束についてさらに関心を深めるよう事業所だけで委員会を開催することを検討している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修を通して高齢者虐待について学び、当施設での虐待が発生しないよう職員の理解と意識向上に取り組んでいる、市役所の相談・報告行う、サービス向上する為にフロア内カメラ設置し、職員の自覚意識向上に繋がる。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び機会を提供しましたが、実際必要の場面少なく、現在利用者様中の利用者様でも成年後見制度を利用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 担当者から詳細に説明を行い、ご理解いただいた上で契約の締結を行えるよう実施している | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見いただいた際は、施設内で迅速に報告と回覧作成を行い反映させるよう行動、会議での検討と発表に繋げている | 毎月発行する便りや電話で利用者の様子を伝え、家族からの意見や要望が言いやすいような環境作りに努めている。家族から入居する前に仕事でエプロンを付けていた人が今も仕事をしていると思えるようエプロンを付けて欲しい、宗教の集まりに行けないのでズームで参加させて欲しいとの家族の要望を反映させている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | サービス向上の一環としてレクリエーション職員話し合えし、意見交換の機会を設けている、実行している。 | 新型コロナ感染以降皆で集まって職員会議を開催することはしていない。何か提案や要望がある時は直接管理者にメールや電話があり、内容について管理者が判断している。職員皆で統一しないといけないこと、利用者のケアに関することは紙面で情報共有を行っている。現在は個別で提案を聞いているが、今後は定期的に会議を開催する予定にしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の労働環境や日々の業務実績については管理者とユニットリーダーが密に連絡を行い、改善と向上に向けて相談を行っている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者との連携を図りながら法人内研修と勤務年数一定の方に法定研修を推薦し、職員を育成する取り組みをしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | いままで認知症サポーター講座を開催し、事例発表を通じた勉強会を実施していましたが、コロナ感染予防の影響で、FAX・電話、ネットワークを通じて、サービス向上の取り組みをしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することと安心を確保するための関係づくりに努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することに努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することに努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様とのコミュニケーションや信頼関係を大切にし、共に過ごし支えあう関係作りに努めている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人とマスク着用の面会ですが、又月1回のお手紙と写真付きの通信で様子を報告させていただき共有しながら家族様と一緒に支えあうことができるように努めている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者様が大切にしてきた馴染みの人や場所の把握し、電話とハガキなどの手段で関係維持に努めている。 | 現在もコロナ感染があるため家族と居室でゆっくり話をすることはできないが、短時間で玄関での面会は行っている。同じ宗教を信仰している人同士フロアで仲良く一緒に過ごしたり、手紙や電話で会話をすることもある。近所の人を訪ねてきてくれることもあり、馴染みの人との関係性が途切れないよう取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席の配置調整、職員仲間に入りゲーム、折り紙など参加して頂き、利用者同士でも話しのチャンス増えるように努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後も、必要な際には情報提供を行えるよう関係の維持に努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様と家族様の意向を確認し、利用者本位を忘れず、ご本人の合ったサービスを提供するように努めている。 | 利用者の意向は「お化粧がしたい」「毛染めがしたい」「あんな服がほしい」など身だしなみに関するものが多く、意向に添えるようファンデーションや口紅を買ったり、職員が毛染めをしている。自分から意向を伝えられない場合は本人の状況を見て推察したり、電話で家族から情報を得ることもある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご利用開始時に利用者様本人や家族様への聞き取りをし、情報収集を行い、本人これまでの生活歴を把握するように努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員・ケアマネ・医療職との連携、情報共有をこまめに行い、心身状態の維持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 短期目標6ヶ月ケアプランの計画を通して、現状に即したサービス提供している、又状況の変化に応じてプランの随時見直しなど行っている。 | 長期目標期間を1年、短期目標期間を6ヶ月として介護計画を作成している。介護計画は利用者、家族の意向を確認し、医師、看護師の意見、日々の様子は職員からの情報を元に作成している。介護計画は家族に郵送し、確認後返送してもらうようにしている。利用者の状況に変化があった場合には計画の見直しも行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活録やケアプラン実施記録を残し、情報共有する体制を作ることによって介護計画の実践・見直しに取り組んでいる | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ひとりひとりのニーズに合ったサービスの提供ができるよう、他部署とも連携を図りながら多様な提案ができるよう努めている | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源の情報を提供し、利用者様が地域の中で活躍や交流がもてる体制を作っている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している | ご本人随時安心して診て頂ける為に、施設の歯科・内科往診を受け、特別の状況時は家族にもしくは職員の付き添いで受診して頂けるように支援している | かかりつけ医は入居時に利用者家族と話し合い、全員が協力医として週1回の訪問診療を受けている。歯科衛生士による口腔ケアは希望者のみ毎週受け治療の必要な時は、歯科医の往診を受けている。以前からの精神科の受診には家族が付き添い眼科・整形外科などには職員が付き添い受診している。看護師による週1回健康観察が行われ医師に繋げ24時間医療連携が取られている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 今年の4月から週1回訪問看護サービスを導入し、看護師とこまめに連携を図り、必要な医療を受けられる体制づくりを行っている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 地域の病院と相談できるような関係作りし、入院時も医療機関と連携を図り、情報提供や退院時の情報確認を確実に行うよう、施設内で体制を立て実施している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご本人の状態に応じて往診医と情報共有し、ご本人と家族様の意向確認をし、看多機と連携し終末期向けの支援に取り組んでいる | 契約時に重度化した場合や終末期の事業所の取り組みを説明して、利用者・家族と話し合い同意書を作成している。利用者の状態が変化した場合は医師より家族に説明して意向を確認して同意書を作成し、思いに添えるよう関係者と連携して支援している。今までに1～2名の看取りを経験している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時のマニュアル整備を行い、対応できる体制を整えているが、職員の入退職に付き定期的に行う必要がある | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 施設内の災害訓練や消防署の指導を受け訓練を行っているが、近所の施設と地域の住民の協力体制を築いている | 年2回の避難訓練の計画はしている。連絡網・マニュアルを用意し、隣の老人施設と災害時の協力を約束しており、近隣在住職員に災害時参集を確約している。非常災害時の発電機を用意し、水・米・冷凍食品・懐中電灯・電気鍋を準備している。 | 避難訓練実施の記録は事業所で保管されていないため確認できていない。非常物品は必要な物をリスト化して管理し、ハザードマップ・福祉避難所の確認・BCP作成の準備への取組み、記録物の保管など誰が見ても分かるような対策を講じることを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に利用者様のプライドを配慮し、言葉遣いを気をつけている、又サービス中で言葉遣いなど気になる事など積極的に回覧と声掛けなど対応している | プライバシー・接遇の研修を実施し、個人を特定するような言葉使いをしない・利用者を特定しない配慮等具体的に話して人格を傷つけない対応をしている。入室時声掛け確認・排泄時の大きな声を出さない支援をしている。不適切な場合は都度注意している。個人情報書類は施錠できるロッカーに保管している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様本人の意向をしっかりと理解できるようにユニット内で働きかけを行い、職員にも心がけの指導を行っている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の暮らしを第一とすることを職員に指導し、それを実践するための業務マニュアルの作成や意識向上に努めている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者様本人や家族様の希望を聞き取り、実践できるよう支援を行っている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の出来る事を見極め、おしぼり作り、テーブルの消毒、食事の盛り付け、食器洗いの参加など積極的に提案している | 配食業者より昼食・夕食が運ばれキッチンで温め盛り付け、ご飯を炊き提供して職員も同じ物を食べている。利用者は下膳をしたりお茶碗洗いを職員と一緒にしている。行事食も取り入れられ、利用者の要望でお好み焼きや焼きそば・冬には鍋料理を楽しんでいる。今後は以前のように外食に出かける予定でいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分摂取量は数値で記録し、栄養状態の把握し、随時往診医などに情報提供するように支援をしている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアの管理、ひとりひとりの適切な支援を行い、歯科往診時の指導も取り入れケアしている | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の自立支援を前提として、トイレ誘導、リハパンツ着用、オムツ使用などご本人に合った排泄手段提供している | 日中は布パンツ・リハビリパンツの人も声掛けや誘導をし、2人介助の人もトイレでの排泄の支援をしている。夜間はオムツ利用の人も、2時間毎の見回りで声掛けしたりパッド交換やトイレ誘導し、安眠を損なわないようその人にあった排泄の支援をしている。ポータブルトイレを利用している人もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況も管理し、医療職と連携しながら食事摂取の工夫や服薬を通して滞便予防に努めている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2回の入浴を提供していますが、体調不良、気分向いてないなどは、振り替えて頂く、陰部洗浄など対応している、ご本人の希望にて、入浴前の毛染めなども対応している | お風呂場はゆったりしており週2回午前中に利用者の様子を見て入浴し嫌がる人は時間を変えたりシャワーにして柔軟に対応し、重度の人には2人介助で職員も湯舟に入り対応し支援している。ゆず湯・入浴剤を使い寛げる時間を提供し、お湯は毎回変えている | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ひとりひとりの生活ペースを尊重し、安心して休息できる生活リズムの維持に努めている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容を介護職が理解できるよう情報を管理し、医療職と連携しながら支援できる体制を構築している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ひとりひとりの趣味や嗜好を知り、日々の生活に張り合いや喜びを感じることができるよう、出来る範囲での家事手伝いや様々なアクティビティの提供に努めている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | いままで希望に沿って外出できるよう、職員の同行や家族様への協力を求め実施すると同時に、外出行事も計画すること出来ましたが、今年はコロナの影響で行事の計画と外出する事が出来なくなっている | コロナ感染に配慮し外出支援は中止しているが、近所の河澄邸(市文化財)にお正月の行事に出掛けている。日常の散歩は出来ていなく、体操の回数を増やしたりトランプ・塗り絵、作品づくり等の支援をしている。ベランダに出て洗濯物を干したりカラオケで大きな声を出している。もうすぐ地域のお祭りに出掛ける予定をしており、ドライブの計画も立てている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の認知度を配慮し、金銭管理について施設マニュアルを設け、安心安全な管理体制の上でお金の使用ができるよう援助している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様には居室内に携帯電話や住所録を持っていただき、自身の希望に沿って連絡を取り、必要な際は援助を行う体制をとっている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共同空間・個人の個室共に、衛生面に注意しつつ環境整備を行い、利用者様ご自身の折り紙、塗り絵など飾り、季節感と生活感を感じるように取り組むようにしている | リビングの入り口は開放され廊下は回廊式で自由に運動できる。壁一面に利用者・職員と一緒に作った折り紙の作品や職員の素敵な絵が貼られている。テーブルやソファ・テレビ・マッサージチェアが置かれ窓から明るい日が入る。空気清浄機を置き天窓を開放し換気に気を付け適時消毒し朝・夜掃除をし年2回クリーン業者を入れ清掃に気を付け清潔にしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共同空間の中に歓談スペースやテレビスペース等、食事の席以外にも空間をつくることで、ひとりひとりに合った生活空間をつくることに努めている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人好みの家具、好きな色のシーツを使用いただき、又普段ご自分の折り紙・塗り絵の作品など壁に飾り、気持ちよく過ごして頂くのが努める | 居室入り口に折り紙の作品を貼り分かりやすくしている。ベッド・エアコン・カーテン・洗面台が用意しており利用者はテレビ・筆筒・仏壇・ハンガーラック等思いの家具を持ち込み折り紙やカレンダーを貼り化粧品やぬいぐるみ自分好みの物を置き居心地よい部屋づくりをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内は安心安全に配慮し管理しつつ、自立した生活が送れる空間をつくれるよう努めている | | |